

【中学校第2学年の実践】

1 主題名

よりよく生きる喜び【D よりよく生きる喜び】

2 教材

「江差追分」を日本中に広めた 初代 浜田 喜一（北海道版道徳教材（中学校用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

よりよく生きる喜びとは、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすことである。

まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己を肯定し、よりよく生きる喜びについて考えさせる指導が大切である。

第2学年の指導に当たっては、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるように、先人である喜一の生き方を取り上げ、その気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方について見いだすことができるようにしたい。特に、数々の困難があった人生の岐路において、逆境に挫けることなく、自分の決断と周囲の支えによって人生を切り拓いていった喜一の生き方を通して、よりよく生きることに ついて多面的・多角的に考えさせ、弱さを乗り越え、次に向かっていこうと努力する実践意欲や態度を育てていきたい。

(2) 生徒の実態【生徒観】

弱さを乗り越え、次に向かっていこうと努力する実践意欲や態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

①国語科『『構成や展開』の特徴を捉える（教材名：『夏の葬列』）』

弱さを乗り越え、次に向かっていこうと努力する実践意欲や態度を育てるために、主人公の心情を丁寧に読み取らせながら、その変化に感情移入させていくという指導を行っている。今の中学生にとって、自分自身が犯した罪を真摯に背負って生き抜いていく主人公の姿は、一人の人間の生き方として新しい発見となるものである。同時に自分自身のこれまでの生き方を振り返り、これからの生き方を考える上で大きな影響を及ぼすことになると考えられる。「自分だったらどうしただろう」と深く考えながら、周りとの意見交流する姿が見られた。

「よりよく生きる」ことについて関しては、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けることについて、一層考えを深めさせる必要がある。

②キャリア教育 「生き方を切り拓く（職場体験学習）」

弱さを乗り越え、次に向かっていこうと努力する実践意欲や態度を育てるために、対応力や社会性の育成を重点としたキャリア教育を推進している。特に、職場体験学習においては、地域の人々の多様な生き方に直接触れることによって、仕事をする・働くということの中には、大変さはもちろんのこと、周囲の人と協力する喜び、周囲の人に感謝される喜び等があることを学ぶ姿が見られた。

今後は、学校生活や自分の生き方にどう生かしていくかについて、考えを深めさせる必要がある。

(3) 教材について【教材観】

よりよく生きることの大切さやよさについて多面的・多角的に考えさせるために、苦労や弱さを克服した時の喜一の気持ちを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

1つ目の発問の「お宅のお店で唄わせてください」と言えなかった喜一の気持ちを考えるという問いでは、「恥ずかしくてできない」など、自分に自信がもてずに、劣等感にさいなまれる気持ちや、「大きな歌手になりたい」というよりよく生きようとする気持ちを想像することが予想される。よりよく生きようとしたときに、弱さや醜さと同時に、強さや気高さをもっているといった人間理解について考えを深めさせる。

2つ目の発問の「喜一はどうして、このような生き方ができたのか」という問いでは、「夢があったから」や「自分の弱さを乗り越えることができたから」など、強さや気高さをもっていたことについて発言することが予想される。自らの弱さや醜さを克服し、人間として生きることの喜びといった価値理解や他者理解について考えを深めさせる。

4 ねらい

浜田喜一の生き方に触れることを通して、数々の困難があった人生の岐路において、逆境に挫けることなく、自分の決断と周囲の支えによって人生を切り拓いていった喜一の生き方をもとに、よりよく生きることについて多面的・多角的に考えさせ、弱さを乗り越え、次に向かっていこうと努力する実践意欲や態度を育てる。

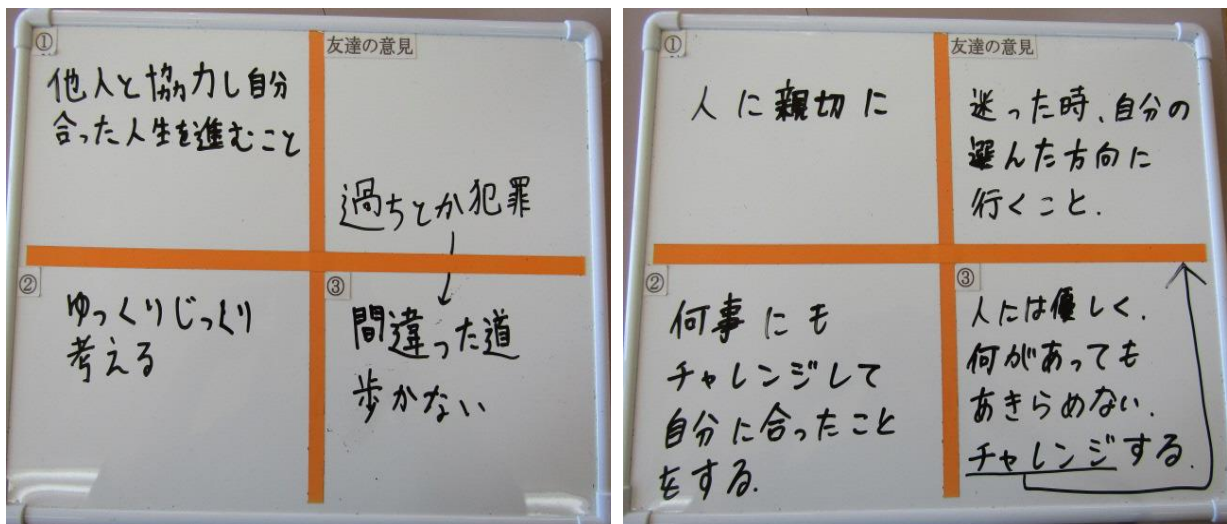
5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導入	● 自分が考える「生き方」を発表する。 ○ 「自分が望む生き方」とはどんな生き方ですか。 ・他の人と協力し自分に合った人生を進むこと。 ・人に親切にできること。 ● 生き方のモデルとして喜一の人物(像)について紹介する。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分の将来の生き方について自分の考えをもつ場を設ける。話し合い方を絞る。(個人思考→ペア) ・イメージしやすいように、画像・音声等を使用しながら紹介する。	【工夫①】 ・よりよく生きることに関わる生徒自身の経験を振り返ることができる活動を行う。
展開	● 教材『『江差追分』を日本中に広めた』を読み、話し合う ○ 「お宅のお店で唄わせてください」と言えなかった喜一の気持ちを考えよう。 ・情けない。 ・くやしい。 ・夢をあきらめたくない。 ◎ 喜一はどうして、このような生き方ができたのか。 ・夢があったから。 ・自分の弱さを乗り越えることができたから。 ・自分の唄を聞いてくれる人々への感謝の気持ちをもっていったから。	・情けなさや恥じらいから自分らしく行動できない時の気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。 ・喜一の生き方のよさについて、多面的・多角的に話し合い、価値理解や他者理解を深めさせる。	【工夫②】 ・道徳的価値の理解を深めるために、価値理解や他者理解、人間理解といった発問の意図を明確にする。 【工夫③】 ・よりよく生きようとすることの価値について考え、価値理解を深める。
開	● 自己を見つめる。 ○ くじけずに乗り越えることができ、うれしかったり、達成感を味わったりしたのは、どのような時ですか。 ・習い事の試験に合格するために、始めに立てた目標を変えずに、チャレンジし続けることができた時。 ・部活動で、大会で思うような結果がでなくても、仲間とできるところまで、頑張ることができた時。 ・友達関係がうまくいかなかったり、相手の話をしっかり聞いたり、自分の気持ちを正直に伝えたりして、よい関係ができた時。	・自己理解を促すため、書く活動や話し合う活動を十分に確保する。 ■ 弱さを乗り越え、努力する生き方のよさや大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・本時で扱う道徳的価値について、自分自身の生活を振り返ることにより、自分との関わりで考えることができるようにする。
終末	● これからの自分にとって大切なものは何か話し合う。 ○ これから生きていく上で大切なものは何かですか。 ・挑戦を続ける強い気持ち。 ・目標を決めて取り組むこと。 ・周囲の方々からの支え。		【工夫⑤】 ・導入で考えた「よい生き方」と、「生きていく上で大切なもの」について、改めて振り返り、学習前後の自分の考えを比較しながら、自分の考えの広がりや深まりを自覚させる。

6 板書



7 ノート・ワークシート



【授業実践を振り返って】

- 主題に対する生徒の興味や関心を高め、喜一の生き方をイメージしやすいよう、画像と音源を交えて、喜一の人物像を紹介しました。
- 「よい生き方」や「将来の自分」について、友達のと比べ、自分の考えを深める展開になるよう工夫しました。
- 主題を自分との関わりで捉え、自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望をもてるような終末の工夫として、最初の問いかけ→喜一の生き方→これから生きていく上で大切なこと、を考える流れで「よい生き方」に対する考えの深まりを全体で確認しました。
- 数年後の自分について考えさせることによって、自己の生き方に関する課題に積極的に向き合い、喜一の生き方からアイデアを得ながら自分の力で考え、よりよいと判断して、行動しようとする意欲を育てることができました。